

歴博をあるく

## 歴博で展示されている千葉県内出土品の数々

広報部会

第1展示室は先史・古代で、千葉県をはじめ全国の遺跡から出土した多くの遺物が展示されています。文化庁の調べで令和3年度の「周知の埋蔵文化財包蔵地数」は全国で47万箇所、うち古墳・横穴が16万箇所あります。古墳・横穴の全国トップは兵庫県の18,707、千葉県は12,772で4番目です。

今回は第1展示室に展示されている千葉県内の遺跡から出土した石器・土器・金属製品について一部を紹介します。

### 石器類

有溝棒状石製品は大網白里市の大網山田台遺跡群（升形遺跡）から出土した旧石器時代のナイフ形石器です。市原市の草刈遺跡から出土した日本列島最古段階の石器といわれる使用痕のある剥片も展示されています。

木更津市富士見遺跡跡から出土した玉髓も展示されていますが、下総台地周辺には石器づくりに適した良質の石材に乏しく、他の地域から持込まれた物と思われる。



有溝棒状石製品（複製）升形遺跡  
原品：大網白里市教育委員会

### 土器・土製品

千葉市加曾利貝塚から出土した縄文中期の加曾利E式土器（深鉢）や佐倉市井野長割貝塚出土の土器が展示されています。

市原市能満上小貝塚から出土した縄文時代晩期のイノシシ形土製品は、胴体と両後足がそれぞれ別の住居跡から出土しました。もともと完形だったものを分割し、祭祀行為の直後に埋納されたと考えられています。

市原市三島台遺跡から出土した人面付土器は、人体を造形した装飾をもつ小型壺形土器で弥生時

代に製作されたと考えられています。飛鳥時代の印旛郡栄町の龍角寺跡からの軒瓦、山武市駄ノ塚古墳からの須恵器も展示されています。



イノシシ形土製品（複製）能満上小貝塚  
原品：市原市埋蔵文化財調査センター

### 金属製品

木更津市長須賀の金鈴塚古墳の石棺からは、古墳の名称にもなった金鈴をはじめ、琥珀製の装身具、金銅製の冠、鏡、金銅製馬具、鉄矛・鉄鏃、飾大刀、須恵器などが出土しました。

第1展示室には、装飾付大刀と金銅製剣菱形座金具付鈴（実物・重要文化財）が展示されています。また、市原市神門4号墳から出土した鉄鏃（複製品）も展示されています。



金銅製剣菱形座金具付鈴（金鈴塚古墳）  
所有：木更津市郷土博物館 金のすず

### 集落遺跡跡

第1展示室には古代東国の典型的な集落と推定される八千代市の村上遺跡のジオラマがあります。また、そこから出土した農作業のための道具である鋤先も展示されています。